

### 3. おわりに

今回の研究報告では、身近にある問題を自らのものに引き寄せて、それを客観的に考えようとするトレーニングとしては有効であったと思う。また、全体的に2回生の健闘が目立った。今後の一層の奮起に期待したい。

物事を考え、他人に訴えるには、「客観性」、「論理性」に加え、「相手を見ているか」が重要になる。まとめると「他者の目」を意識しているか、ということである。今回の報告会では、文献の少なさ、インターネットへの極端な依存、わかりにくい表記、授賞式の際の態度、が正直かなり気になった。「他者の目」を考慮することは、これからの生活で必須の能力である。ぜひ、今回の反省として頂きたい。

## 第7分科会

株式会社スターフライヤー 常務取締役営業本部長 武藤 康史

### 1. 分科会全体に対する講評

初めて研究発表会に参加させていただきました。学生諸君の心地よい「勢い」が感じられたし、楽しくもあり、感心させられた一日でもありました。

また、プレゼンテーションも相当練習を積んだ後が窺え、好感が持てました。一本調子になる面は否めませんが、発表自体はグループみんなの意気込みが伝わって、全般的にとっても優れていたと思います。

研究発表は全部で7つの分科会に35の発表があり、それぞれに興味深いテーマが選ばれていました。ざっくり分けると①観光・旅行産業②地域経済③流通・サービス産業④社会学・人類学⑤九産大 というようなテーマの括りといえるでしょうか。これを各分科会に異なるテーマをちりばめて（ミニシアター的、ですね）発表・審査しているのですが、分科会ごとの様子を見ますと「発表した段階で終わっている」という感があるのと、他の発表との比較において自分達がどうだったのかは審査員任せで、他グループの内容にはあまり興味がない風情が伝わってきました。このあたり、今後もう少し改善の余地があるように思います。（自分の発表が終わると皆さんすぐに教室からいなくなってしまうでしたね）

また、別の分科会で同じテーマがかぶっているケースもありました。むしろ同じカテゴリごとに分科会を形成し、「優劣・違いが明確に見えやすい形式」にすることで、自分達の位置（優劣）を自覚し、今後の改善意欲をかき立てるというやりかたもあるのかもしれない。

また研究発表の「ゴール」についても「分析・研究の結果発表」にとどまらず「学生としての提言」「ビジネスの種としての可能性」まで持っていきようにするなど、せっかくの若い感性の萌芽を今後さらに引き継いで育てられるような視点・基準を学校側として設定しても面白いのではないのでしょうか。

## 2. 各グループに対する講評

### ①着地型観光における観光ボランティアの役割と課題

テーマとしては論文調になりやすいものでしたが、山鹿市、南関町という、実地フィールドワークを主体とした研究を行ったことで、課題と論点がとても具体的になり、分かりやすい発表ができていたと思います。また、2つの事例をベンチマーキング的に比較したことで、観光ボランティアの役割について、評論的でなく現実味を持って説明できていました。

もう少し掘り下げて良かったかなと思う点は、成功事例において地方自治体の関与（サポート）が果たしている役割、ボランティアの方々の商魂のたくましさなどの要素の分析です。なぜ山鹿市でこれが顕在化でき成功に導けたのか、九州以外の地域での成功事例から、もっと普遍性のある分析・評価ができないか、というところでしょうか。また、研究の背景説明が少し固かったですが、実地報告に入ると発表者のとてもはつらつとした説明が良かったと思います。PPT（パワーポイント）の出来栄もGOODでした。

### ②待ち遠しいよIC乗車券

関東の私鉄（PASMO）、関西のJR・私鉄共通カードICOCAと、最近話題になったテーマを取り上げ、時流を捉えた設定だったと思います。福岡では見慣れないものということで、ICカードの機能がPPTを駆使して分かりやすく解説されていました。またICカードが今後の観光振興に果たすかもしれない役割を分析するなど、新しい視点で研究もされていました。ICカードでは後発になってしまった「福岡」へのもどかしさを感じながらの発表だったのかもしれませんがね。

もう少し考えても良かったと思われるのは「事業者側の視点」です。このICカードはJR東日本のシステムとインフラを全国が使うという極めて珍しい「一人勝ちモデル」であり、それでも私鉄やJR他社が乗っかるのはなぜなのか？（駅ナカ・駅近への店舗設置による消費拡大、キセル防止による投資効果、料金前受けによる金融収益などなど、いろいろな要素がありそうで）とても面白い分析ができる分野なので、JR東日本や関東私鉄の営業企画部門などへの突撃インタビューなどを行えば、もっと奥の深い研究になったのではないかと

と思います。

### ③韓国人観光客を増やすために

タイトなテーマを選び、九州の役割と可能性を考えるという、かなりチャレンジングな発表でしたが、結論から言うと論点の絞込みは成功だったと思います。冗長になりがちなインバウンド観光データを分かりやすく分析し（データの出典をきちんと明示しているのもいいですね）、韓国から福岡への訪問客が多いからこそあまりいろんな国を散漫に狙うのではなく強いところで勝負すべし、という主張でした。これは現実の旅行業・観光業の実態にも即して立派な分析です。

また、九州がさらに観光誘致を行ううえでもっと魅力のある観光資源をアピールしろ、交通インフラを整備せよというのをも的を得ており、仮説の立て方もしっかりしています。分科会優秀賞に値する発表でした。

不足点を上げるとすると、フィールドワーク（＝現実の観光産業におけるナマの声を収集し、分析すること）でしょうか。九州の旅行代理店の悩み・課題、来日する側の韓国人旅行者の本当のニーズとは？などを聞き取り、整理したうえで、呼び込む側の自治体は何をしてるんだ、という構成にすれば、もっと迫力が増したでしょう。

### ④わが国における少子化の原因について

あまりに大きなテーマなので、まず驚きました。昨年も同様のテーマがあり、社会保障（年金）につなげた発表だったようですが、今年はどうするのかと。少子化の原因と対策をスウェーデンの事例を取り上げて懸命に解きほぐしており、敢闘したなあと思います。このような大テーマに対してはいろんな視点や意見があるでしょうから、原因分析はある程度割り切って仮説を立てて行い、むしろ対策について主張するほうに力点を置くという手法もありかと思います。

ただ今回の発表においては「だからどうしたいのか（どうすべきなのか）」があまり見えなかった気がします。また日本における原因分析→スウェーデンにおける対策という流れの場合には、両国の少子化をめぐる社会環境と国民性の違いをきちんと比較するプロセスが必要でしたね。

ハイライトは、チームの男子学生全員が「3人以上子供を作る」というはっきりした意思表示を行ったことでした。彼らの「有言実行」に期待したいと思います。と同時に、その意思を受け止めてくれる良き伴侶を見つけられんことを……。

### ⑤K&J Silver care system

今回は通訳時間の関係もあり、審査対象ではありませんでしたが、韓国からプレゼンテーションに来ていただき、本学学生との交流を深められたことは良かったと思います。また日本よりも産業的に進んでいるロボットによる介護をビジネス化するという視点は、研究発表よりも起業することを念頭にした発表姿勢が窺えて、日韓の学生のビジネスマインドの違いを感じました。また、韓国技術のビジネスフィールドとして日本を見ている点も新鮮でした。

残念だったのは日本の学生諸君が当初この発表に集まらずに、時間をだいぶ遅らせて聴取者集めをしなくてはならなかったこと。身内や仲間の発表しか聞きに来ないような風潮があるようだと、今後の本イベントのあり方にも影響するのではとの危惧を持ちました。

## 3. おわりに

九産大のこの研究発表会は、参加メンバーやテーマの広がりもあり、今後も大いに盛り上がりたく思います。私が勉強しない学生だった頃とは隔世の感がありますね・・・。

学生たちの努力の成果に対して、いい面をしっかり受け止めて個性と感性を伸ばしてあげられる風土をもっともっと広げていただくことを期待しています。

参加させていただき、ありがとうございました。

北九州市立大学経済学部 准教授 後藤 尚久

## 1. 分科会全体に対する講評

4つの報告のうち観光関連についての発表が3グループあり、専門外の私としては、審査をすることが難しい反面、非常に勉強になった。その意味では、「少子化」を取り上げ研究したグループには若干審査上不利になっていたかもしれない。

すべてのグループが、現地調査、インタビュー、データ収集など、学生がある問題について研究するに当たって必要と思われる事項を実施しており、優れた成果を挙げていたと感心した。

ただし、「なぜこの研究テーマを選択したのか」という研究するにあたり最も重要だと思う点が私には明確には感じられなかった。学生にとって、研究テーマを見つけるという作業は、これまでの大学での学習への取り組みや日常生活における生活状況などが反映されるはずである。そういった中から、疑問点が浮かび上がり、「調査してみたい、調査すべきである」という行動に駆られるものである。その点が発表時には希薄だったのが残念

である。もちろん、短時間で調査内容をすべて報告しなければならないという大きな制約があったことが原因であることは否定できないが。

上記の問題点を感じたことがあったにせよ、学生の発表態度、発表内容はすばらしく、点数化して順位を決定することに意味があるのかという疑問すら出てきたほどであった。発表終了後、説明不足であったと思われる点を追加説明に来る姿には、感動すら覚えた。今回の研究を更に進めて、よりいっそう完成度の高いものに仕上げしてほしい。

## 2. 各グループに対する講評

### ①着地型観光における観光ボランティアの役割と課題

着地型観光という最近注目されている観光形態を取り上げ、その意義を分析する非常に意欲的な発表であった。とくに、着地型観光の成功例である山鹿市と途上例である南関町に現地調査に行き、その違いを明確に分析している点は他のグループにはない調査内容であった。

### ②待ち遠しいよIC乗車券～Suica・TOICA・ICOCAに続け～

2008年、2009年に相次いで導入される予定の西日本鉄道のnimoca（ニモカ）、JR九州のSUGOCA（スゴカ）というIC乗車券に着目し、そのメリットと課題について分析している、先見性のある研究である。IC乗車券導入を福岡を中心とする九州全域の観光に結びつけ大変意義のある研究であると思われる。

### ③韓国人観光客を増やすため～九州の役割と可能性～

ビジット・ジャパン・キャンペーンの目標達成に関連して、韓国人観光客に着目し、近隣地である九州の観光に結び付けた興味深い研究発表であった。九州への外国人観光客の60%以上が韓国人観光客であること、個人観光客はリピーターが多いことをデータから明らかにし、韓国からの個人観光客の獲得を目指すことが必要であると結論付けている。また、そのためには、外国人が個人で旅行できる交通環境を整備することが重要であることを示している。非常に論理的で、優れた研究である。

### ④わが国における少子化の原因について～今と未来を繋ぐもの～

現在及び将来の日本の社会的・経済的に最大の難問である「少子化」問題に取り組んだ意欲的な研究である。とくに、福祉国家の代表であるスウェーデンの少子化対策と比較し

て、わが国の少子化対策が不十分であることを明示している。また、スウェーデンが、国民負担増を強いるために、インフォームドコンセントを十分に行ったことを説いた点は、日本の政治のあり方に疑問を投げかける非常に有意義な研究である。

### 3. おわりに

研究発表のすべてが、powerpointを活用して行われ、ビジュアル的にもわかりやすい発表であった。口頭での発表も聞き取りやすい声でしっかりと発表していた。

報告は非常にまとまっており、短時間でありながら説得的な内容であった。欲を言えば、もう少し、学生らしさが出てほしいかなという感じがした。私の言う「学生らしさ」とは、報告内容には若干詰めに甘さはあるが“情熱”“熱意”が感じられるということである。

ただ、可能であればぜひ来年も参加させていただき、今回の研究の発展形を拝聴したいと思わせる報告ばかりであった。

### 謝 辞

最後に、この場をお借りして、商学会の活動にご協力いただいたすべての方にお礼申し上げます。とくに、商学部グループ研究発表会に外部からご参加いただきました審査員の皆様には、年の瀬のお忙しい中、ご参加頂いただけでなく、学生に期待をこめて、厳しくも温かい叱咤激励をいただきました。改めて感謝申しあげる次第です。

(編集委員：高橋公忠・後藤孝夫・松本守)